

インフォメーション

くまもとアートポリスにまつわるエピソード、プロジェクト周辺の話題などを本誌上で取り上げていきます。読者の皆様のご寄稿をお待ちしています。またくまもとアートポリスに関するご意見、ご感想もお寄せ下さい。

KAP'92がニュースになりました。

「くまもとアートポリス'92」は国内外の幅広いジャンルからの参加を得、成功に終わった。このイベントは新聞・雑誌にも広く取り上げられた。ここに主な掲載記事を上げてみた。

西日本新聞 <文化にシフトする町づくりの軸>「くまもとアートポリス」熊本ではじめての大規模な国際建築展。(92.11.28)
室内 特集「室内」をガイドブックにこの秋は熊本に行こう。(92.11)
ARCAS 「くまもとアートポリス'92」はアートポリスの成果の発表の場。今後も熊本から目がはなせない。(ARCAS'92.12)
建築文化 熊本では、今後4年ごとに新たな都市のネットワークが重ね合わせられる。

その度ごとにそこにはもうひとつの都市があらわれるだろうか。(93.01)

《その他の掲載誌》

MANBOW(93.01)/at(93.01)/SD(92.12)/ポートフォリオ(92.12.1)/日経アーキテクチャ(92.12.21)/シティ情報ふくおか(92.11.6)/文化ジャーナル鹿児島(92.11.1)/JAF MATE(92.11.1)/ザ・テレビジョン九州版(92.10.23)/週刊読売(92.10.11)/日経トレンディ(92.10.1)/月刊かごしま・タウン情報(92.10.1)/タウン情報くまもと(92.10.1)/FUTURE DESIGNING(92.10.1)/TELESCOPE(92.8)他



故木島安史氏の一周忌を迎え…



1992年4月27日、55歳の誕生日を目前に急逝した木島安史氏。早いもので一年が過ぎようとしている。ここに追悼の意をこめ、各方面の方々の追悼文を紹介する。

◆熊本大学での熱のこもった講義、建築家としての活動。世界に通ずる建築デザインを誕生させたいとする、エネルギッシュな作品。木島先生の活動を振り返ると、一生の間に人が使えるエネルギーの量には一定の制約があるのかと恨みたくなる。

向角光男氏（熊本大学教授）

◆「長生きしなきゃダメだ」と木島はよく言っていた。「長生きしていれば、敵はやがていなくなる」というのが理由だった。その言葉は私に言ってくれたのか、なにも君が死ぬことはない。余りにも早すぎる。寂しい。

吉田研介氏（東海大学教授）

「孤風院の会」募金を開始

木島氏の意志継承を目的とする「孤風院の会」（会長：堀内清治熊本大学名誉教授）が募金活動を始めた。同会は故人をしのび昨年9月に発足。氏の業績を整理、保存し、シンポジウム、作品集・論文集の出版、作品のビデオ製作等の行事を計画している。同会では事業の活動資金を募集している。資金の拠出対象のひとつとして「孤風院」（旧熊本大学工学部講堂）の維持活動も検討している。

連絡先

「孤風院の会」事務局
〒102 東京都千代田区麴町4-3-5
紀尾井観光ビル4F YAS都市研究所内
TEL 03-3230-4445

牛深架橋の設計者 ピーター・ライス氏 惜しまれて逝く



世界有数の建築・土木エンジニアを輩出してきた英国オヴ・アラップ・アンド・パートナーズ社。昨年10月に亡くなったピーター・ライス氏は、そんなイギリスのエンジニアリング界でももっともクリエイティブな思考と冒険精神の持ち主であり、現代建築を面白くした人だった。57歳という若さで逝ったライス氏の死は、世界の建築・土木界の大きな損失として哀しまれている。

ライス氏が熊本県を訪れたのは1989年5月と7月。くまもとアートポリスのプロジェクト「牛深漁港連絡橋」をレンゾ・ピアノ氏、岡部憲明氏、そして前田設計と共同で設計することになった氏が、3人で県知事に表敬訪問し、牛深の現地に足を運んだのだ。

1971年、斬新すぎるほどのデザインで世界をあっという間に驚かせ、しかし今ではパリのシンボルとなりつつあるボンビドゥーセ

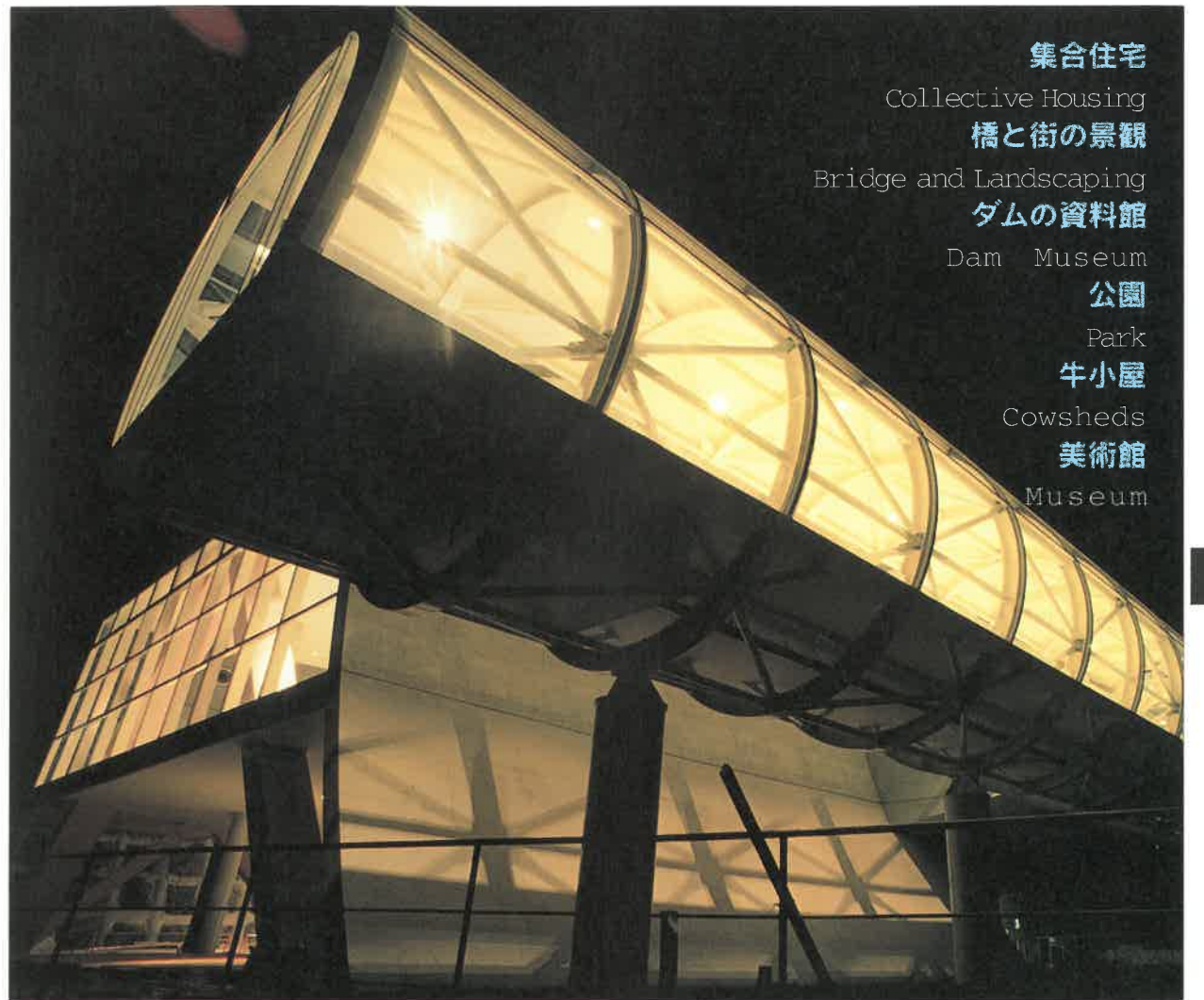


1997年の完成を目指す牛深港の海上にはコンクリートの巨大な橋脚が出現。海鳥が羽をやすめていた。

ンター。3人が顔を合わせたのはこのプロジェクトが始まりである。

ライス氏は何を設計するときも、その「マイクロ気候」の中で生きる有機体として考えた。それはワインをつくるのに似ている。魅力的なワインの味というものは、その土地の土壌、湿度、天気といった条件が複合的に作用しあうマイクロコスモス（小宇宙）の中で育まれたものだ。建築物もまわりの環境とそんな有機的な関係を結ぶよう、設計されなくてはならない。だから牛深の橋という特殊解を導くためにも、彼はピアノ、岡部両氏と相当の議論と思考錯誤を重ねた。

橋は1997年3月に完成する予定だ。牛深漁港連絡橋は関西新空港で組んだピアノ・ライス・岡部3氏が日本で実現させる、もうひとつの合作である。



集合住宅
Collective Housing
橋と街の景観
Bridge and Landscaping
ダム資料館
Dam Museum
公園
Park
牛小屋
Cowsheds
美術館
Museum

●新規完成プロジェクト特集
●シリーズ…9 くまもとアートポリス参加建築家に聞く—藤江和子

K·A·P

くまもとアートポリスニュース第11号
1993年3月発行
●発行——くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築課内 熊本市水前寺 6-18-1
tel 096-383-1111 (内線6220/6221)
fax 096-384-9820
●編集——くまもとアートポリスコミッショナー事務局
東京都渋谷区渋谷2-4-7 YK青山ビル
建築・都市ワークショップ内
tel 03-3407-4753 fax 03-3407-8753

県営新渡鹿団地

Shintoroku Public Housing Complex

設計者 小宮山昭

所在地 熊本市渡鹿 3-854-1

●交通

市営バス(NTT病院・保田窪新道経由)「戸島(一本木)行」、「渡鹿7丁目」下車
¥220/約20分

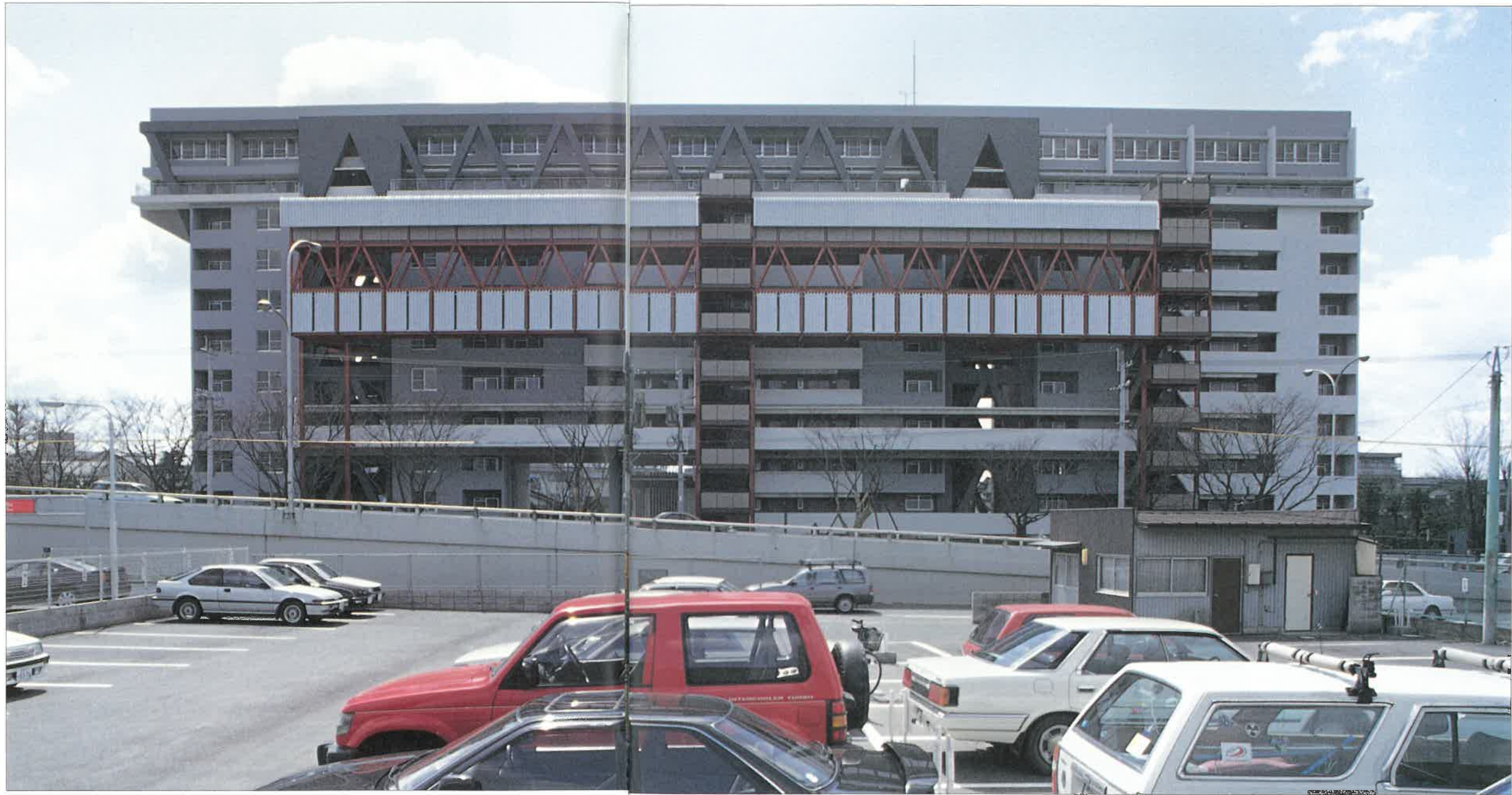
●見学メモ

見学は外観のみ可能。写真撮影は団地居住者の迷惑にならないよう、ご注意を。
問合せ 熊本県住宅課
tel(096)383-1111 内線6247

●データ

主な用途 集合住宅
事業主体 熊本県
構造設計 MUSA研究所
設備設計 環境計画研究所
施工 建築/清水建設+光進建設JV
電気/太陽電気
衛生/上田商会、熊本大電設備
昇降機/フジテック
ガス/西部ガス
面積 敷地5,022m²/建築1,135m²/延面積7,151m²
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
規模 地上11階
主な仕上げ 屋根・外壁：シート防水着色仕上・コンクリート打放し、防水着色仕上げ/壁・床：ビニールクロス貼り、フローリング張り、畳
工事期間 1991年7月～1993年3月

2



(上) 南側より見る (下) 北側全景 (下左) 空中歩廊

道路に面する北側ファサードは虚飾のない、ダイナミックな構造がそのまま形態的な特徴となっている。これは都市景観への慎重な配慮でもある。建物の周辺には、既存の桜並木を活かした歩道を作った。これはパブリックな空間。建物の下部にはピロティや吹き抜けが設けられているので、見通しの良い快適な歩行者空間になっている。

3

小宮山昭 (こみやま あきら)



1943年 東京生まれ
1967年 早稲田大学理工学部建築科卒業
日建設計入所
1972年 フランス政府給費留学生
1973年 ピアノアンドロジャ・スボンビド・センタ-設計参画
1975年 バリ大学都市計画学科、エコル・デ・ボザル修了
1976年 小宮山昭+アトリエR-級建築士事務所
主な作品
科学技術万博覧会西ゲート、横浜博覧会協会本部棟、
LPハウスⅡ、4thビル、泉郷伊豆高原コンドミニアムホテル
1986年 日本建築科協会新人賞



空中歩廊が都市住宅のスケール とライフスタイルをつくる

草地畜産研究所畜舎

Kumamoto Grasslands Agricultural Institute

設計者 トム・ヘネガン+インガ・ダグフィンズドッター+桜樹会・古川建築事務所

所在地 阿蘇郡阿蘇町大字西湯浦 1454

●交通

車での見学をお薦めします。(熊本市内から約90分)

●見学メモ

見学は外観のみ。撮影は牛の迷惑にならないよう注意。

●データ

主な用途 畜産研究施設畜舎

事業主体 熊本県

構造設計 上農康弘(ジメント)

設備設計 龍義則(アール設備企画)

施工 建築/日動工務店、川上建設、

橋本建設、蔵原建設

電気/正興電気商会、不二電気

工業

機械/熊本設備、杉谷水企工業

畜産浄化槽/ダイキ、神鋼バン

テック

面積 敷地 3,856,595 m²/建築(12棟)

7,388m²/延床(12棟)7,303m²

構造 鉄筋コンクリート造+小屋組木

造(一部鉄骨造)

主な仕上げ 屋根・外壁:フッ素樹脂塗装鋼

板葺・鉄筋コンクリート/壁・

床・天井:コンクリート打放し・

コンクリート木ゴテ仕上げ・

木屋組み放し

工事期間 1991年11月~1992年9月

4



(上) ランドスケープの中に配置される (下) 肉用牛繁殖試験牛舎 撮影:石丸捷一

広大な敷地の中に、4つの主要な畜舎と、機能的に従属する建物が点在している。屋根が黒い金属板で葺かれ、急勾配なのは、阿蘇山から飛んでくる火山灰の定着を防ぐと同時に、自然換気の効率を高くするため。全体的に日本家屋を思わせる建物の形態は、この土地の気候条件やランドスケープ(風景)、さらにそれぞれに要求される機能に呼応している。つまり、そうしたファクターや建物同士の関係が、形態に抽象化されているのである。

5

T.ヘネガンとI.ダグフィンズドッター



トム・ヘネガン

1951年 イギリス生まれ

1975年 AAスクール卒業

1991年 まちのかお事業(富山県)マスター-ア-キテクト

主な作品

滑川展望施設(富山県)、ヤマギワ照明賞品展示設計

1975年 新建築住宅設計コンペ1等

1980年 景観芸術コンペ1等(英国)

1983年 コルト/ビルディング設計コンペ1等(英国)

インガ・ダグフィンズドッター

1954年 アイスランド生まれ

1985年 AAスクール卒業

主な作品

滑川展望施設(富山県)、ヤマギワ照明商品展示設計

動物の快適性を追求したら
美しい建物になった

県立美術館分館

Prefectural Museum of Art Chibajo Branch

設計者 エリアス・トーレス+ホセ・A・M・ラペーニャ+大和設計

所在地 熊本市千葉城町2番18号

●交通

徒歩約10分 (交通センターより)

●見学メモ

開館時間 火曜～金曜

午前9:30～午後6:30

土曜・日曜・祝祭日

午前9:30～午後5:00

休館日 月曜日

問い合わせ 熊本県立美術館分館

tel (096) 351-8411

●データ

主な用途 美術館

事業主体 熊本県

設備設計 村上隆光(弦設備設計事務所)

施工 建築/浅沼組+坂口建設 JV

電気/太陽電気

機械/空調/上田商会+三祐工

業JV

衛生/広誠設備工業

昇降機/東芝

面積 敷地4,071m²/建築1,889m²/延

床5,084m²

構造 鉄筋コンクリート(一部鉄骨造)

規模 地上4階/地下1階

主な仕上げ 屋根・外壁:銅板葺・石貼り

(県産合津石) 乾石工法/壁・

床:天然銘木化粧ケイカル・天

草陶石貼り

工事期間 1991年10月～1992年10月



熊本城の壮大さと力強さに呼吸を合わせたデザイン。外壁は県産の石、屋根は銅板で仕上げられている。どちらも建物が年月を経るにつれ、自然に変化していくよう選ばれた材料だ。内部では床と壁にナラ材が使われ、外観と対象的な、柔らかな雰囲気空間になっている。

(上) エントランスホール (下) 熊本城に面する立面 (左) 4階展示室 撮影:石丸捷一

E. トーレスとJ. ラペーニャ



エリアス・トーレス

1944年 スペイン生まれ

1968年 バルセロナ建築高等技術学校卒業

ホセ・A・M・ラペーニャと専門的な協力関係を結ぶ

1969年 バルセロナ建築高等技術学校教授

1977年 ロサンゼルスUCLA客員教授

主な作品

イビサの教会、大阪花博フォーリー、バルセロナオリン

ピック選手村

1986年 The Golden Delta、ADIFAD産業デザイン賞

ホセ・アントニオ・マルティネス・ラペーニャ

1941年 スペイン生まれ

1968年 バルセロナ建築高等技術学校卒業

エリアス・トーレスと専門的な協力関係を結ぶ

1980年 バルセロナ建築高等技術学校教授

主な作品

イビサの教会、大阪花博フォーリー、バルセロナオリン

ピック選手村

1986年 The Golden Delta、ADIFAD産業デザイン賞

建物の再生 重厚な外観は石垣に向き合う

白川橋のデザインと川沿いの修景を終えた藤江和子氏

白川にもっと親しめるような橋になるといい…

熊本市の中心を貫く白川。昭和28年、木橋が水害で流され鉄橋に再建された白川橋。この橋を現代の発想でデザインしなおすことで、川沿いの風景を変えていこうというのが「白川橋景観整備計画」である。それは街並みと川と人の関係を考え直すことでもあった。この魅力的なテーマに取り組んだのがデザイナーの藤江和子さん。屋外のデザインは初めてという藤江さんに、この仕事で考えたことなどを伺った。



橋の「修景」を依頼された時、まずどんなことを考えました？

そこで修景をかなり自由なフレームワークで考えた？

最初に倉俣史朗さん(故人)がこの白川沿いの基礎調査と修景の提案を行なっていたんですね。それに引き続いて私が白川橋を修景することになったわけです。

いや、たいへんでしたよ。予算の問題もありましたしね。じゃあ何が出来るかという、なにしろこの橋は全長が150mもあって、例えば手摺りをデザインしようと思うと延べ300mになる。ペイプメント(床)を綺麗にしようと思うと床面積がすごい。延べ300mの幅4mですからね。それだけで予算がなくなっちゃう。予算の中には目に見えないものも入っていて、実際私たちが設計するとき目に見えるもののコストとは別に、例えば現場工事の費用などもかなり膨大にかかるわけですね。で、コンサルタントにその辺を指導してもらって理解すればするほど、何も出来ないというのが分かってきた。現実問題厳しかったですね。

この橋を照明の装置として考え始めたのは、どの段階からですか？

光はかなり最初からうまく使えるといいなと思ってました。光の扱いに関するアイデアはいろいろ持っていたし。倉俣さんの案にのっとって、とにかくいろんな案を作りましたよ。そして途中から河川敷に降りるスロープをつくって見たんです。この橋を通じてもっと歩行者に白川との繋がりをもちたいと思って。すごく広い河川敷ですから。

たしかに遠くからもはっきりと分かる橋になりましたね。さて、屋根というか三角形のフレームですが、みんなかたちが違う？

実は2種類だけで、向きを変えて組み合わせてあるわけ。ちょっと変えると全然かたちが違って見えるのね。

この構造を浮かせている柱は路面にアンカーしている。ペイプメントは予算の関係上モルタルで仕上げ、中央部分だけタイルを工夫して貼りました。でも同じパターンはどこにもありません。ペイプメントより上はすべてスチールにメッキ、シルバー焼付け塗装です。

工場で作った材料を現場で熔接するわけですね。

そう。上の雲のような部分は三つのブロックに、つまりトラックに載せて運べる大きさに分解したんですが、分解することによって構造がものすごく難しくなってしまうんですね。構造は佐々木(睦朗)さんなんですけど、彼がその解決にのめり込んだというか、振り回されたというか。(笑)それと、かたちが非常に不定形です。同じ角度のものはどこにもない。だから計算が非常に複雑です。同じ三角形の繰り返しなら簡単なんですけど。三角形の大きさも形も全部違う。だからどこから見ても橋が違って見えるわけです。

三角形の組合せはどのように考えた？

模型をつくって考えるわけ。まず二次元で平面とか立面で考えるんだけど、最終的には模型にしないと分からない。とにかく模型でかなり練って、写真もたくさん撮ってきて考えました。

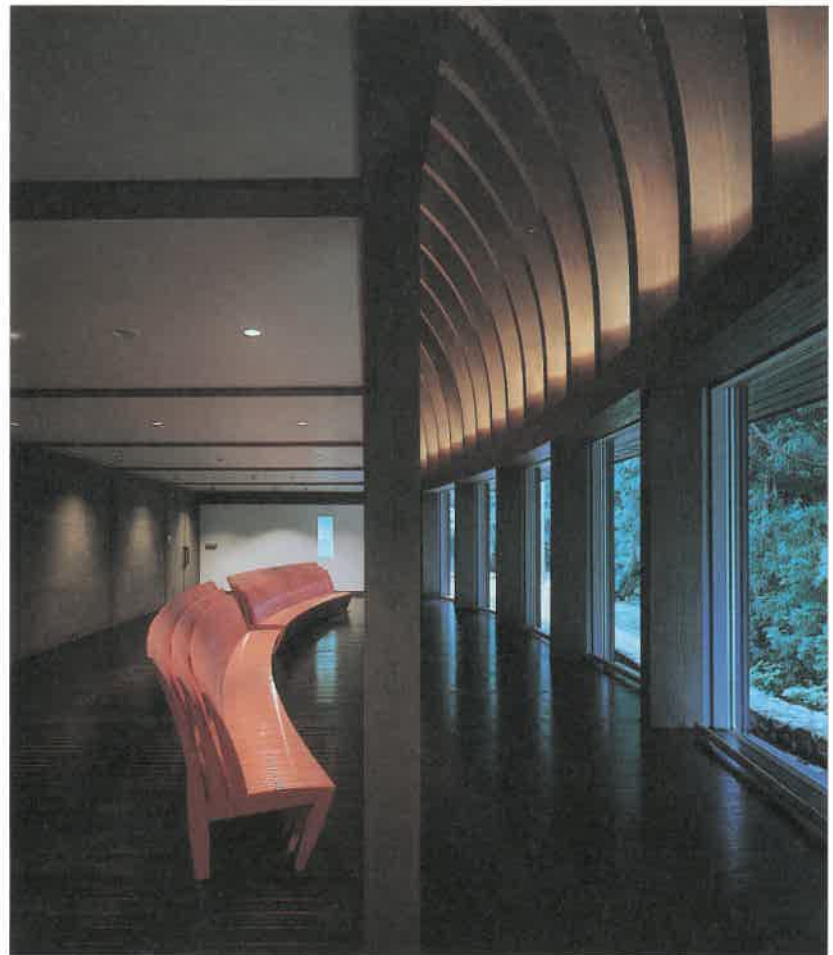
藤江和子氏略歴
1947 富山県富山市生まれ
1968 武蔵野美術短期大学デザイン科卒業
1969 宮脇建築研究室インテリアセクション入所
1973 エンドウプランニング入所
1977 フジエアトリエ主宰
1987 藤江和子アトリエ設立
《おもな作品》
パブリックハウス(ワゴン・リ)、電通大阪支社、郡山グランドブーク、パルフェ魚津店料理教室、KIRINプラザ大阪、多摩市立複合文化施設、テピア、東京歯科大学水道橋ビル、富山県立博物館(以上内装および家具デザイン)
《おもな受賞》
1989 日本商環境設計家協会商環境デザイン賞優秀賞
1990 日本インテリアデザイナー協会賞

ずばり、何のイメージなんですか？

「雲」でもいいですよ、「魚」と言う人もいます。どっちでもいい、浮いて動いてれば。人も動くから形も変わっていく。

この橋のデザインにはストリートファニチャーの要素もありますね。ストリートファニチャーを設計された経験は？

初めてです。屋外の仕事は初めてで、ずっとやりたかったから嬉しくて。スケールも大きいから面白かったし。例えば、照明器具というのは室内で使うものと、屋外で使うものとはかなり違う。屋外のものは制限がとて大きいんです。ライトに関して私がいちばん最初に条件として決めたのは、水銀灯のあの不思議な色、人の顔色が変わる見える、あれは絶対いやだと思ったんですね。そうでなくて、しかも特殊でないものをいろいろと探した。で、選んだのが水銀灯と白熱灯が半分ずつ入っているようなものです。それに外部になると、風だの雨だのという与条件がでてきます。家具やインテリアを手掛けてきた今までの私の仕事にはそういう与条件はなかったの、感覚的には「絶対できるよ」と思うんだけど。じゃあ、例えば風にはどう対応するのか、それは構造の佐々木さんと考えるしかない。でも佐々木さんもこのようなプロジェクトはめずらしいのか、面白がってやって下さったので、私には楽しい経験になりました。



撮影：古館克明 富山県立博物館に置かれたベンチ

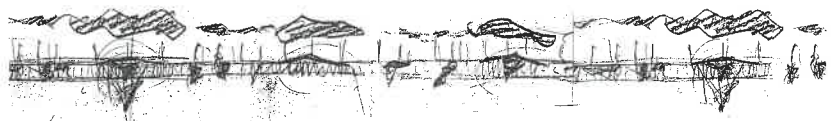
構造の専門家と仕事をしたのは初めてでしょうか？

ええ。私としては上部のかたちをある程度自由につくり、支柱やペーパメント、ガードレールという下の部分に関してはある程度システムを決めてから、そこに乗せたんです。その二つを最小限の方法でどう繋ぐか、それがテーマでした。でなければ浮い

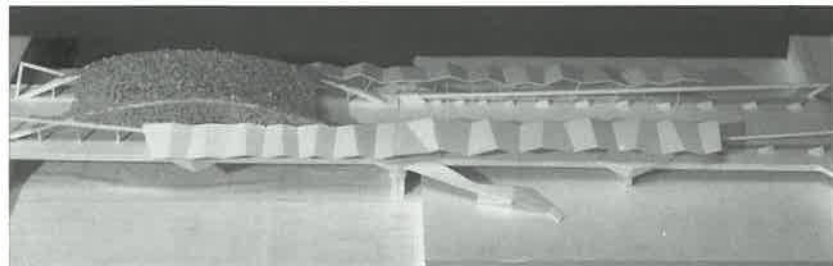
たかたちになりませんから。それを佐々木さんをお願いしたわけです。

このプロジェクトは建築でもないし、ストリートファニチャーだけでもない。面白いプロジェクトですよ。

ええ、ランドスケープに関わる仕事というのは楽しいですね。



(上) スケッチ (下) 初期のスタディ



白川橋景観整備

Shirakawa Bridge Landscape

設計者 藤江和子

所在地 熊本市二本木

●交通

JR熊本駅徒歩3分

●見学メモ

道路の交通量が多いので要注意。

●データ

主な用途 橋梁
事業主体 熊本県
施工 武末建設
規模 全長150m／道路幅員20.6m
うち車道幅員12m／歩道幅員4m
主な仕上げ フライングライト支柱：スチール、
アクリル樹脂焼付けパネル、スチールエキスパンドメタル
ガードオブジェ：コンクリート波板状打放し、
アルミ波板貼り
ペイプメント：タイル貼り、コンクリート打ち

10

工事期間 1992年3月～1993年3月



(上) 白川橋夜景 (下/左下) 朝・星はまた違う表情を見せている

橋の路面パターンやストリートファニチャーは、人々が共有する固有の「場」への興味を誘うよう、素材感を生かしながら設計されている。頭上に連なる「フライング・ライト」は、陽陰りのシャワーを落とし、やがて自己発光する不定形のオブジェ。陽が落ちるとともに徐々に形を成し、漆黒の世界に光を浮遊させる、橋の「舞台装置」である。

11

宙に浮く大きな照明灯で 白川橋が地域の目印になった

教会の見えるチャペルの鐘展望公園

Sakitsu Hilltop Park

設計者 梅田正徳+スペースデザイン設計事務所

所在地 天草郡河浦町崎津

●交通

車での見学をお薦めします。(熊本市内から約180分)

●見学メモ

駐車場から階段を登る必要あり。(徒歩5分)

問合せ 河浦町役場 企画調整室

tel(09697)6-1111

●データ

主な用途 公園

事業主体 河浦町

建築設計 坂田一幸(風設計室)

構造設計 アド構造設計

設備設計 岡本繁和(レオ建築設備事務所)

施工 展望広場 大昌建設

遊歩道 大宝建設、北野建設

面積 敷地652m²(展望広場部分) 建築

41m²(四阿、便所)/延床 41m²

(四阿、便所)/鐘楼高さ 15m

構造 鉄骨造

規模 地上1階

主な仕上げ 鐘楼:(柱・梁)桧張り/展望公園内床:白御影石ジェットパーナー仕上げ

工事期間 1991年10月~1993年3月



(上) まちから公園に続く階段 (下) 階段を下りると正面にチャペルが



梅田正徳(うめだ まさのり)



1941年 神奈川県生まれ
1962年 桑沢デザイン研究所卒業
1967年 A&PGカスティリオーニ事務所入所
1970年 オリベッティ社コンサルタントデザイナー
1981年 メンフィスに参加
1986年 ユーメタデザイン設立
主な作品
メンフィスのための家具「俵屋」、エドラ社の椅子「花」シリーズ、岩崎電気の野外照明「ランドルーチェ」シリーズ、トマト銀行インテリアデザイン
1968年 第1回ブラウン大賞
1990年 日本インテリアデザイナー協会賞、Gマーク公共空間部門大賞



(上) 円形広場 (下) 河浦のまちとチャペルと公園 撮影:石丸捷一

鐘楼としてのタワーを中心に置いた円形のステージ前には約130人座れるベンチがあり、休憩、屋外礼拝、結婚式、集会、コンサートなど多目的に利用できるようになっている。巨大なタワーの仕上材は天然のヒノキ。時の流れとともに自然に変化し、時間との融合を表現することになるだろう。



まち中に鳴り響く鐘の音が
風景をやさしくした

石打ダム資料館

Ishiuchi Dam Museum

設計者 入江経一

所在地 宇土郡三角町大字中村字八久保

●交通

JR三角線熊本発→石打ちダム駅下車→徒歩
1.5Km

¥560/約45分 (JR熊本駅から)

●見学メモ

4月末開館予定

●データ

主な用途 資料館

事業主体 熊本県

構造設計 今川憲英 (TIS&Partners)

設備設計 井上宇市 (井上宇市設備研究所)

施工 建築/マコト建設

電気/鋤田電設

機械/天草設備

昇降機/三菱電機

面積 敷地 1,521 m²/建築 520 m²/

延床 455 m²

構造 鉄筋コンクリート造

規模 地上2階

主な仕上げ 屋根・外壁: シート防水シン
ターコンクリート金ごて押さ
え・コンクリート打ち放し撥水
剤2重塗布 (一部AEP)

工事期間 1992年10月~1993年4月(予定)

14



入江経一 (いりえ けいいち)



1950年 東京生まれ
1974年 東京芸術大学建築学科卒業
1976年 同大学大学院修了
東京工業大学篠原研究室
1980年 入江建築設計事務所設立
1987年 パワーユニットスタジオ設立

主な作品

参宮橋の住宅、千葉の住宅、モノル (玉川学園集合住宅)、
"キャラバン" 現代美術館(Sydney)、BEAN HAHOUSE (東京)

1991年 東京建築士会特別賞



(上)チューブ状の展望ロビー (下)ダムと資料館

石打ダムを訪れた人が、ダムや治水について学ぶとともに、石打ダムと周辺の眺望を満喫するための施設。内部は展示空間とその管理部門、そして展望ロビーからなっている。展示空間はRCフラットスラブ構造で、天井高は4.4m。展望ロビーは直径4m、長さ26mで、チューブ状になっている。



15

ガラスのチューブは 石打ダムに浮かぶUFO